

Ⅱ. 平成29年度 事業実績 と 平成30年度 事業計画のポイント

1. 委員会活動

委員会 ★委員長	重点方針 → 平成29年度課題	平成29年度 事業実績 < >前年差	次年度に向けた課題	平成30年度 事業計画のポイント
(1) 運 営 ★永塚 誠一 自工会 副会長・専務理事	・「 自動車総合団体 」会議所の活動実績・計画の審議・承認 ⇒ 会議所ならではの機能 を活かした取り組みの推進	① 総会・理事会 ・運営委員会「理事会・総会提出議案」審議・承認(2/20、5/12書面審議) ・理事会「平成29年度事業計画・予算」審議・決定(3/2、6/7) ・総 会「平成28年度事業・決算報告」承認・決議(6/7) ② 新規取り組み ・「くるま好き」の育み → 会議所ホームページ(HP)全面改定、自動車関係情報一括掲載(6月) ・ 団体の「働き方改革」 → 有志研究会スタート(8月)	・ 社会的視点 からの取り組みの見直し・増幅 ・ 会員の理解・支持を得た、 業界一体 での推進と、会議所運営リソースの活用見直し	・ 新規アドバイザー委嘱 と月例ミーティング参加(4月) 戸田 前東京デザイン学校社会貢献活動推進ディレクター ・ 「 特別委員会 」の情報特化、「 人材委員会 」の新規立ち上げ、会議所スタッフ活躍の新機会付与・育成、業務の改廃(4月)
(2) 税 制 ★井上 尚之 自販連 法規・税制委員長	・ 自動車関係諸税の抜本改正 による「負担軽減」・「簡素化」の実現 ⇒ H31年度抜本改正 へ向け「勝負の年(H30年)」の中間年として万全の準備	① 委員会 ・ 第1回「要望書案」審議(10/5) → 取りまとめ(10/16)、報道説明会(10/17) ・ 第2回 額賀自民党自議連会長講演「H31年度抜本改正に向けた課題と展望」(2/15) ② 政党ヒアリング・陳情 ・ 国会議員、関係省への要望書の提出・説明(10/16) ・ 自民党自動車議連政策懇談会(11/10) ・ 自民党運輸・交通関係団体委員会、国交部会(11/10) ・ 公明党自動車議員懇話会(11/17) ③ 自動車税制改革フォーラム ・ 「 ユーザーの声収集・街頭活動 」の全国初展開中(4月～) 収集 2,287人分/43都道府県 ・ 関係21団体による全体会議 (2/1、3月) → H30年度活動計画の策定 ◇ H29年度大綱 「H31年度税制改正までに、保有に係る税負担の軽減に関し総合的な検討を行い、必要な措置を講ずる」	・ 「 抜本改正 」実現に向け、 行政・議員を動かすインパクトある訴求活動のタイムリーな強力推進 ・ フォーラム中心に活動展開(4月～早期スタート) ＊ 5月自動車税納付、 6月政府骨太の方針 に留意 1) 「 ユーザーを中軸に据える 」 ユーザーから国会議員への提言、キャラバン活動 2) 「 官邸も視野に入れる 」 官邸政策(若者、子育て、地方)と調和したメッセージ、陳情 3) 「 国会議員個々に響かせる 」 都道府県単位のユーザーの声・自動車関連法人一覧	
(3) 道路・環境 ★梶野 龍二 全ト協理事長	・ 道路整備を中心とした交通円滑化、持続可能な社会実現に向けた環境対策の要望・提言 ⇒ 働き方改革・生産性革命 の進捗状況把握 ⇒ 注目度の高い「 自動運転 」についての最新情報集中提供	① 委員会・会員研修会 ・ 第1回委員会「 運輸業界の働き方改革と生産性革命 」(5/29) ・ 第233、238、242、245会員研修会「 自動運転シリーズ(1～4) 」(2、7、11、2月) (経産省、国交省、警察庁、内閣官房、総務省、鎌田 東大教授、小林 交文社社長) ② パブリックコメント ・ 「 第5次環境基本計画 (H30～34年)」についての意見提出(9/7、3月) ③ エコドライブ啓発ポスター ・ 19会議所、JR駅70ヶ所を含め358枚<前年の1.5倍>(夏冬の2回)	・ 運輸業界策定計画(3月)の理解・情報共有 ・ H29年度(省庁別 取り組み状況)を踏まえた、 社会包括的課題面 からの状況整理・把握 ・ 重要時事案件への的確な対応 ・ 改定要望への対応	・ 第1回委員会「 運輸業界の働き方改革行動計画 」(4月) ・ 会員研修会での 自動運転第2シリーズ 展開(H30/3月～) ・ 国際公約の「 地球温暖化対策計画 (H31～33年)」についてパブコメ提出(12月) ・ ポスターデザインの9年ぶり変更(9月)
(4) 人 材 ★島崎 有平 自販連常務理事	・ 活力(働きやすさ+働き甲斐)ある 職場づくり ⇒ 先ずは、職場ニーズの把握 ・ 業界特定した個別支援活動トライ	① 研究会・会員研修会 ・ 「 研究会 」を有志5団体でスタート(8月～ 1.5回/月) ・ 第244回研修会「 目標管理制度の意義を高めるマネジメント理論 (海老原 人事雇用ジャーナリスト)」(1/17) ② 中小整備専業事業者支援策の検討 ・ 東京都中小企業サポート事業を活用した直接支援は申請断念(1月) ・ 国交省「 自動車整備人材確保・育成推進協議会 」へ参加(6/22)	・ 「 働く 」ことを「 人事 」の基本から再考し、 活力を考える機運醸成 ・ 2年間蓄積した人脈・知見の有効活用方策	・ 「 人材委員会 」の立ち上げ(4月～、5回/年) 講師：中澤 高知大特任教授、元新日鉄S・E協会HRS委員長 ・ 「協議会」を通じた間接支援に転換・注力し、中小機構、全国中央会等の支援機関の制度利用促進
(5) 法 制 ★神谷 俊広 全タク連理事長	・ 自動車関連産業に関わる法制問題の要望・提言 ⇒ タイムリーな情報把握・展開	① 委員会 ・ 第1回「 タクシー事業を取り巻く最近の情勢 (国交省)」(12/12)	・ 状況の変化・進展に応じたテーマ設定	・ モビリティサービス全体 としてとらえる方向で検討(年央)

委員会 ★委員長	重点方針 ⇒ 平成29年度課題	平成29年度 事業実績 < >前年差		平成30年度 事業計画のポイント
		次年度に向けた課題		
(6) 交通安全 ★木場 宣行 日整連専務理事	・交通安全諸施策の調査・研究と要望・提言 ⇒ 未然防止 の取り組み強化 ・業界連携の啓発活動の企画・推進 ⇒ 参加協力団体の拡大	① 委員会・会員研修会 ・第1回委員会「JARI 自動運転評価拠点(Jtown)視察」(12/18) ・第2回委員会「1-12月事故発生状況と特徴(警察庁)」(3/16) ・第241回研修会「健康起因(眼)による高齢者事故(川守田北里大准教授)」(10/11) ② 啓発イベント「アクション2017」 ・新宿西口(4/8・9) 参画43団体<+2>・173人<+39>、来場13,500人 シニア5割<+6,300> ・お台場(11/18・19) 参画48団体<+5>・189人<+20>、来場20,000人 ファミリー8割<-2,000> ③ 支援・協賛活動 ・「サポカー(セーフティ・サポートカー)」選定(4月)、ロゴ決定(6月) (経産省・国交省と共同) ・ポスター・チラシ幹旋 8団体 4万枚<前年並>、敏捷性測定機器供与 体験3,832人<+132> ④ 交通安全ポスター募集・展示・素材提供 ・「サポカー」をテーマに加え、応募102作品<+56>。サポカーPR素材に活用	・解明の進む 健康起因事故 の理解促進 ・現場での現物確認による知見拡充の継続 ・ イベント対応スタッフ増強 ・ 来場者属性に合致 したブースコンテンツ見直し ・効果・効率面からの検証 ・「サポカー」の認知浸透 ・募集、活用の継続活性化	・最新事情に精通する、専門講師による研修会の開催(10月) ・川守田准教授の研究室訪問視察会の開催検討(年央) ・ 関連法人への幅広い要員協力の働きかけ ・新宿で 高齢者の気付きを促す 体験コーナー設置(4月) ・イベントのあり方の研究 ・ 業界団体HP・イベントでの普及啓発の協力働きかけ ・時宜に応じたテーマの設定
(7) 保険 ★秋田 進 日本通運 取締役常務執行役員	・自動車保険に関わる制度適正運営の要望・提言 ⇒ 自賠責保険料の一般会計繰り入れ分6,114億円の繰り戻し	① 繰り戻し 23.2億円、15年ぶりに返済実現 (12/22閣議決定) ② 委員会 ・第1回委員会「国交省あり方懇への意見」審議・決定(5/23) → 陳述(5/30) ・第2回委員会「一般会計繰入金返済への対応」審議(10/18) ・第3回委員会「金融庁自賠審への意見」審議・決定(1/18) → 陳述(1/24)	・ 被害者救済事業の安定的・持続的拡充に繋がる、繰り戻しの継続拡大	・「被害者団体」の声結集、陳情ルートの拡充(5月) ・ シンポジウム的な啓発・PRイベントの開催 (9月)
(8) 特別 ★和辻 健二 自工会常務理事	・「クルマ好き」の育み ⇒ 「クルマ」関連情報の有効活用	① 委員会 ・第1回委員会「東京モーターショー(TMS)の周知と動員協力の要請」(8/29) 「TMS」バナーの掲載：HP掲載 21団体、機関誌に開催概要紹介 17団体 ② 会議所HPの新設「クルマの情報館」での新着情報掲載開始 (8/1) ・掲載 686件/6ヶ月(産業インフォメーション 405、イベント・行事 214、他 67)、アクセス 3,467件/月	・次回TMS連動企画による盛り上げ ・「 クルマの情報館 」の認知アップ・アクセス拡大 中期目標10,000件/月	・ 休催年イベントでの実施可能事項の検討 (年度前半) ・ 情報掲載カテゴリーの充実見直し (モータースポーツ等)(年度前半) ・ 業界法人HPでの「クルマの情報館」バナーの掲載

2. 個別重点活動

(1) 会員研修・視察会	⇒ 参加数=ニーズ合致度 意識(研修会80人、視察会40人)	① 会員研修会 ・ 自動運転シリーズ4回 を含め、計12回開催 出席1,005人、83人/回<+10> ② 国内施設視察会(11/28・29) ・「 安近短+車 」コースに転換：東京近郊の道路建設現場、日産テストコース 参加52人<+38>	・ホットニーズの調査・把握 ・コース企画の考え方踏襲	・ 自動運転第2シリーズの展開 (H30/3月～)等 ・ 実車に触れる企画 (10月)
(2) 広報	⇒ 業界紙との関係強化	① 「会議所ニュース」発行(月刊3,650部)、パンフレット改定(6月) ② 報道説明会(6・10月)、ニュースリリース(12回)、「芝大門ペンクラブ(中堅若手)定例会」発足(4回)	・「ニュース」伝達の効率化 ・アドバイザー的視点の充実	・ 紙媒体活用実態 の把握 ・ベテランとの接点拡充
(3) 出版事業	⇒ サービス性の向上	▽ 「数字でみる自動車」(11,000冊)、「自動車年鑑」(25冊)、「運送事業経営指標」(450冊)	・サービス性・効率性のセット向上	・「 数字でみる自動車 」のあり方の検討(H31年度版)
(4) 日本自動車会館運営	⇒ 安心・安全で連携のとれた職場づくり ⇒ くるまプラザを活用したPR・啓発・社会貢献	① 総務関係 ・入館団体の要望に沿った定期賃料改定の合意(12月) ・交流会(9月) 参加135人、女性連絡会立ち上げ(9月)、防災備蓄品準備完了(3月) ② 広報関係 ・カットモデル、社会関連データボード、オリパラ、TMS、 会館らしい演出総仕上げ完了 (4月) ・御成門小学校勉強会(6月)、交通安全ポスター募集(7～9月)	・NBF(貸主)との良好な関係維持 ・交流会開催継続に向けた再認知 ・最新ニーズに応じた展示見直し	・防災訓練などNBF行事への積極参加推奨(持ちつ持たれつ) ・「皆のため、皆でつくる」意識浸透に向けた組織活動推進 ・オリパラ行事、万博招致関係ニュース掲示(適宜) ・「 親子キッズエンジニア (自技会共催)」を都内初開催(H30/3/28)
(5) 全国会議所連携	⇒ 会議所運営基盤の充実支援	▽ 全国専務理事会(10/26、2/8)、永年勤続者表彰式(3/2)	・地元での自動車情報活動の増幅	・日本自動車会議所ホームページの活用・バナー連動